

タイトル:平成 27(2015)年度 教育セミナー(第 11 回)

日時:平成 27 年 9 月 21 日(月・祝)～24 日(木)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「独立後のチュニジアにおける社会移動」

金 信遇 (上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻)

昨年度に引き続き、今年度も中東・イスラーム教育セミナーに参加させていただきました。私にとって、この教育セミナーは、自分を広げる場、自分を試す場、自分を表現する場でありました。

まず、本教育セミナーでは中東・イスラームという幅広い括りで、多様なフィールドと時代をそれぞれ異なるディシプリンで勉強している大学院生が集まります。今年度も東南アジアからマグリブまでの幅広い地域を違う手法で研究している同年代の人同士で議論を進めることで、自分の知識や見解も広げることができました。他人の観点から自分の研究を考えてみることは、独りよがりになりがちな修論作成においてとても有意義な経験でした。さらに、講師の先生方もとても幅広い知見を共有してくださいました。たくさんの知識を身に付けることができたのはもちろん、全く慣れない地域の話や考え方が刺激となり、研究に対する学問的・人間的アプローチ方法も学ぶことができました。

次に、本教育セミナーでの質疑や議論、セミナー後の飲み会での話などを通じ、自分は何を知っている、何を知らないのか、自分の考え方がどちらかに偏ってはいないかなどと、自分を試す場にもなりました。普段、大学院の同じ研究室ですっと生活をしていたら、その研究室内では常識のように通用される知識や議論の範囲が限られてしまうことがあります。本教育セミナーはいつもの環境とは違う「外」の世界を提供してくれるので自分を客観的に試すことができます。それに、2 年連続で参加することで去年の自分と今年の自分が研究的にどのように変化したか、どれほど成長し、どこが足りないのかを認識することができます。なので、参加回数に制限を設けず、むしろ歓迎して下さる本教育セミナーは中東・イスラーム地域を勉強する大学院生が自分の成長を測るためには最も理想的な場所だと思います。

最後に、今年度の教育セミナーでは自分の修論の構想と今まで研究してきた内容を発表することで、自分を表現する場でもありました。普段、近い分野を研究する同じ大学院の院生同士だと気づかない点を他大学や他分野の学生たちから指摘してもらえるのはとても貴重な機会です。その上、中東・イスラーム研究分野の大御所(しかも大人数)の先生方の前の発表はとても緊張しますが、なかなかない機会であり、先生方に自分の研究を知っていただくとともに、直接的なアドバイスがいただけます。特に修士レベルでこのような貴重な発表の機会をいただけるのは本教育セミナーが唯一無二と言っても過言ではありません。

まだまだ勉強を始めたばかりの修士 2 年目の学生ですが、2 年間の教育セミナーの参加は、自分が研究を進めていく中で一つの軸になり、刺激になりました。このような機会をくださった先生方にお礼を申し上げるとともに、4 日間のストイックな日程の中、何の不備もなく、勉強に集中できるように用意してくださった千葉様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆様、ありがとうございました。